

中野忠教授古稀記念号発刊の辞

社会科学学会会長 畑 恵 子

中野忠先生はめでたく古稀を迎えられ、本年3月末日をもちまして、早稲田大学を定年退職なされました。中野先生は、1993年に本学部教授として着任されてから、20年にわたり、社会科学部および社会科学研究科の教育・運営に尽くされてきました。先生のご退職は私どもにとって淋しい限りではございますが、先生が最後の日までお元気に教壇に立たれ、ご研究に専念されましたことを、心よりお慶び申し上げます。社会科学学会一同からの感謝の気持ちを込めて、ここに本号を中野忠先生の古稀記念号として刊行させていただきます。

中野先生は学部では「社会史」「比較社会経済史」、大学院では「社会史」などのご講義および研究指導を担当なさいました。別掲の業績リストにありますように、イギリス都市史、近世ロンドン史に関して数多くのご研究を發表され、この『社会科学総合研究』にもほとんど毎年投稿されていました。いつも研究室でお仕事をなさっており、休日ですえ研究室に明かりがついていました。とにかくご研究熱心で、心底それを楽しんでおられました。先生からは「研究者のあるべき姿」を教えられてきたように思います。

先生は2006年9月から2008年9月まで、社会科学総合学術院副学術院長および社会科学研究科教務主任をお務めになり、博士論文提出までの手続きの制定など、とくに大学院の改革にご尽力なさいました。また、2010年7月から2013年3月まで評議員として、大学全体の運営にも関わられました。慶應義塾大学のご出身でありながら、誰よりも早稲田大学と社会科学部を愛し、その発展のためにお力を惜しまれなかった先生に、心より感謝申し上げます。先生は最終講義で「早稲田大学のような素晴らしい資料を所蔵する大学で研究生活を送れたことをありがたく思う」

と述べられました。先生らしい、謙虚で真摯なお言葉であると感銘を受けました。

ご退職後も大学の近くに研究室を構えて、ご研究を続けていかれると聞いております。先生にはご研究に専念していただきたいのですが、学部も大学院も難しい局面を迎えておりますので、今後とも、私どもをご指導くださいますよう、社会科学総合学院のためにお力添えをくださいますよう、お願い申し上げます。早稲田大学図書館においでになる時には、14号館にもぜひお立ち寄りください。先生にはご健康に留意なされ、お元気でご活躍なされますよう、お祈り申し上げます。